

スキル標準の在り方に関する研究会

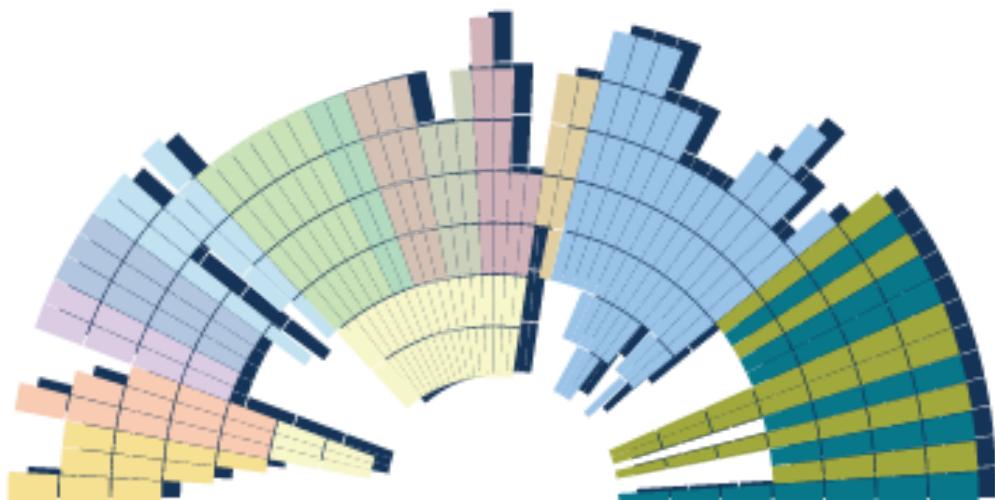
スキル標準関連の今後の取り組みに向けて

2014年2月12日

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

IT人材育成本部

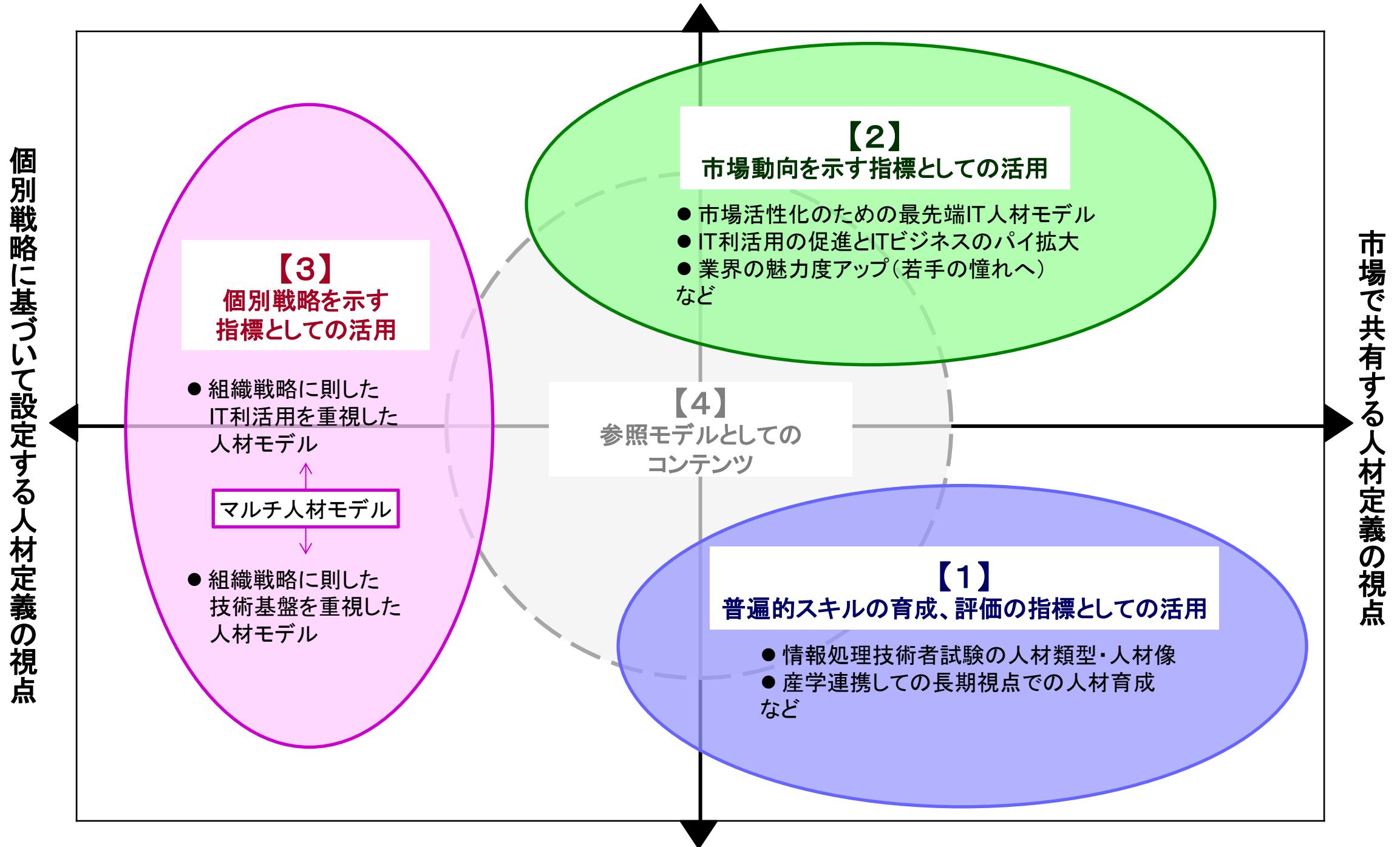
HRDイニシアティブセンター



# 【参考資料3】「スキル標準の枠組み」の活用視点に関する整理

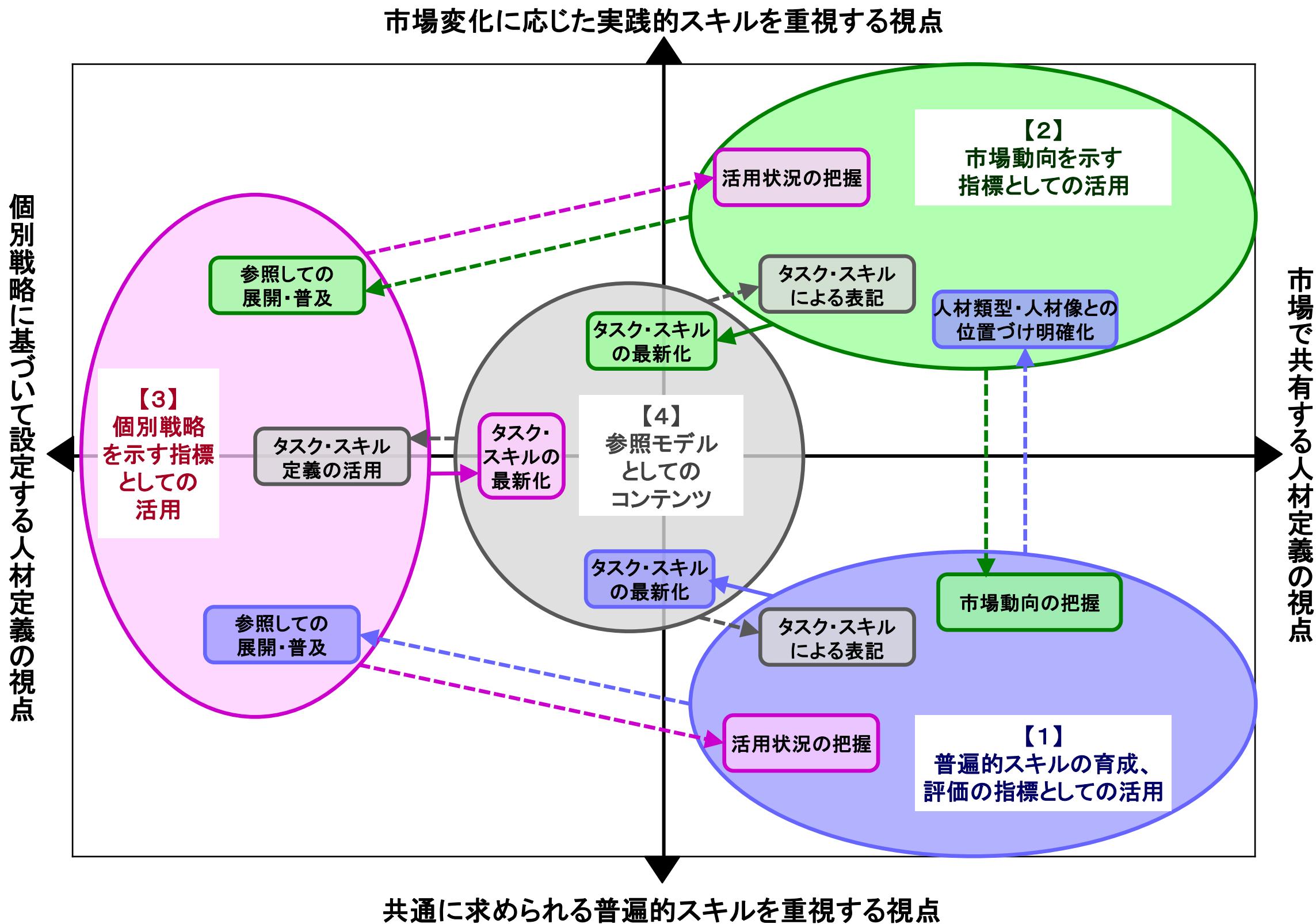
スキル標準の活用視点は多々存在しますが、代表的な視点として以下のように整理する方法があります。  
このような活用視点を整理し意識したうえで、今後の取り組みについて検討していきたいと、ご協力お願い致します。

## 市場変化に応じた実践的スキルを重視する視点



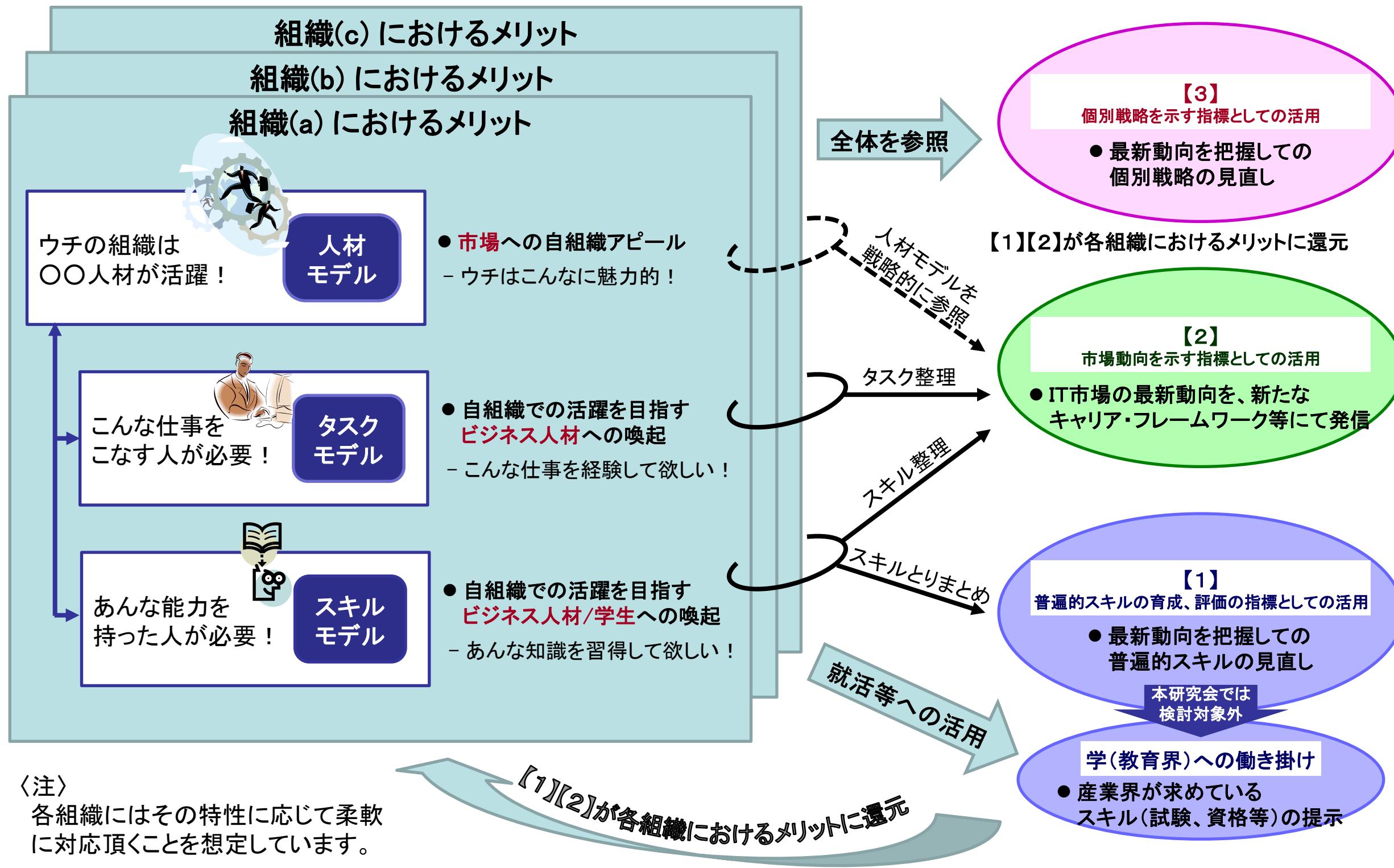
# 1. スキル標準の分類間の関連図

分類間では、下図のような関連を維持・発展させることが重要と想定されます。(取り込み: → 参照: --→ )



## 2. 民間の知見を活用したスキル標準の展開に向けて

ご協力頂く組織の有益性確保を前提に、下図のような仕組みの構築を目指したく想定しています。



# 3-1. 今後の役割分担の想定

スキル標準関連の取り組み体制として以下のような案を想定しており、ご協力をお願いしたいと存じます。

分類		【1】 普遍的スキルの育成、 評価の指標	【2】 市場動向を示す指標	【3】 個別戦略を示す指標	【4】 参照モデルとしての コンテンツ
概要		● IT関係のベースとなる 人材類型・人材像	● 市場を牽引するための 参照モデル	● 【1】【2】を参照し、【4】を 活用しての導入・運用	● タスクやスキルの 辞書機能
既存フレーム		● CCSF第一版 〔情報処理技術者試験 産学連携〕	● ITSS、UISS、ETSS 〔キャリア・フレームワーク〕	● 個別対応	● CCSF追補版活用システム 〔タスク・スキル・知識〕
枠組み 定義	主体者	● <b>経産省/IPA</b>  【課題】 ・当該体系の見直しに関する タイミングや体制 ・海外動向との整合性確保 など	● <b>業界団体等</b>  【注】 ・当面は <b>経産省/IPA</b> が牽引		● <b>IPA</b> (将来は民間対応を検討)  【課題】 ・メンテナンスのルール造り ・海外動向との整合性確保 ・学術／ビジネス観点の両立 など
	有識者 組織	● <b>学会/教育事業者等</b>	● <b>業界団体等</b>	● <b>業界団体等</b>	● <b>学会/教育事業者等</b> ● <b>業界団体等</b>
メンテ ナンス	コア コンテンツ	【注】 情報処理技術者試験の メンテナンスや普及・促進は IPAが担当する。		【注】 CCSF追補版活用システム の実証研究は、IPAが担当 する。	
	活用 コンテンツ				
普及・促進					

## 3-2. 今後の役割分担の想定(補足説明)

前頁(今後の役割分担の想定)を補足説明させていただきます。

### 【1】普遍的スキルの育成、評価の指標

- IT関連分野における一般社会人から普遍的技術の高度人材までを対象としています。  
〈注〉本研究会では、産業構造変化を目指した議論(総務省/文科省や学との連携 等)ではなく、産業界における対応の議論を中心としたくお願いします。
- 情報処理技術者試験が代表的であり、**経産省**が今後も中核を担っていくことを想定しています。なお試験の運営は**IPA**が実施します。
- 民間では**学会/教育事業者等**による活動が望まれます。

### 【2】市場動向を示す指標

- **業界団体等**に動向を示す人材モデル等を提示頂き、それを元に新たなキャリア・フレームワークの発信等を目指したく、想定しています。  
なお当面は**経産省/IPA**が戦略的観点に鑑み整理・公開し、その後は民間主体への活動へと順次移行していきたく想定しています。  
〈注〉政府調達等の官庁が主導するモデルも、業界団体等による活動の延長線上に位置づけることを想定しています。
- 人材モデルを提示頂く場合は、その整理に向けてCCSF追補版活用システムに準拠してタスクやスキルの検討もお願いします。

### 【3】個別戦略を示す指標

- 企業向けには、**業界団体等**により、【1】【2】を参照し、CCSF追補版活用システムのタスクやスキル等の利用を促しながら、企業ごとの戦略確立とその実現に向けた活動を推進して頂きたく想定しています。
- 個人向けには、**学会/教育事業者等**により、【1】【2】を参照し、CCSF追補版活用システムのタスクやスキル等の利用を促しながら、個人ごとの優位性を見極めとその具体化に向けた活動を推進して頂きたく想定しています。
- 以上の民間での活動を、**経産省/IPA**はCCSF追補版活用システムの普及・展開を促しながら、支援していきます。

### 【4】参照モデルとしてのコンテンツ

- CCSF追補版活用システムの提供を通し、**IPA**がタスクやスキル等のメンテナンスのルール造りとその運営を実施していくことを想定しています。なお将来的には、**学会/教育事業者等**や**業界団体等**による自主運営への移行を目指したく想定しています。
- このコンテンツは、学術およびビジネスの両面の観点で、海外動向との整合性を確保しながら、目標設定・調達・育成・評価等の人材育成活動における規格的役割を目指したく考えています。については**皆様**より広くアドバイス等を頂戴したく、よろしくお願い致します。

# 4. ご協力に向けたご検討依頼



スキル標準関連の取り組みにご協力頂きたく、皆様にはご検討お願い致します。  
つきましては、下表の白欄において対応が見込める箇所に○を記し、ポイントを説明頂ければ幸いです。

〔凡例〕 ○: 対応が見込める箇所    ◎: 左記○の中でも主体的な遂行が見込める箇所

分類	【1】 普遍的スキルの育成、 評価の指標			【2】 市場動向を示す指標			【3】 個別戦略を示す指標			【4】 参照モデルとしての コンテンツ		
	枠組み 定義	メンテ ナンス	普及・ 促進	枠組み 定義	メンテ ナンス	普及・ 促進	枠組み 定義	メンテ ナンス	普及・ 促進	枠組み 定義	メンテ ナンス	普及・ 促進
経産省（案）	◎	—	—	○ (牽引)	—	—	—	—	—	—	—	—
I P A（案）	○	◎ (試験)	◎ (試験)	○ (牽引)	—	—	○ (活用システム)	—	—	◎ (データベース)	◎ (データベース)	○
皆様の 組織	◎ ○ 欄											
	説明 欄											

### ご協力を想定頂く前提

- 自組織にとり**有益な活動であることを**前提に、ご協力をお願いします。
- 【2】で人材モデルを提供頂ける場合は、CCSF追補版(およびその活用システム)に準拠して**タスクやスキルの検討**もお願いします。

# 〈ご参考〉CCSF追補版活用システムのカバー範囲

CCSF追補版活用システムは「IT関連分野」をコアとして、タスク/スキル/知識を整備していきます。

分類	【4】 CCSF追補版 活用システム	【1】 普遍的スキルの育成 評価の指標	【2】 市場動向を示す指標	【3】 個別戦略を示す指標
<b>ビジネス関連分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務/専門性</li> <li>● 最先端技術</li> </ul> などの利用者(組織)特有のスキル			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界ビジネス特性</li> <li>● 最新技術動向</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務内容</li> <li>● 競争優位性技術</li> <li>など</li> </ul>
<b>IT関連分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IT分野のタスク遂行に必要なビジネス知識・サンプル</li> <li>● テクノロジ</li> <li>● メソドロジ</li> <li>● IT分野のタスク遂行に必要な社会人知識・サンプル</li> </ul> などのIT分野の形式知化されたスキル	ITSS、UISS、ETSS J07(J17) eCF、SFIA 等  知識体系BOK(試験) PMBOK BABOK SQuBOK SWEBOK REBOK DMBOK CBOK EABOK SABOK TABOK 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材類型/人材像</li> <li>● 情報処理技術者試験</li> </ul> 〈注〉 内容については、最新化に向けて常に努力されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界動向</li> <li>● 社団法人の指標</li> <li>● 企業グループの指標</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別企業の指標</li> <li>● IT人材個人の指標</li> <li>など</li> </ul>
<b>社会人関連分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般的なコンピテンシー</li> <li>● パーソナル力</li> <li>● 組織力</li> <li>● 価値創造力</li> </ul> などのIT分野以外の形式知化されたスキル	IT関連分野については充実を図っていく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界組織特性</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別のビジョン</li> <li>● 個別のポリシー</li> <li>など</li> </ul>

《注》 上記【4】において、融合IT人材に求められる価値発見等の能力について、その全てを対象にできるとは現状では言えない。